

目次

日中共同研究者一覧

第1章 令和3年度 知的財産保護包括協力推進事業の概要	1
第1節 共同研究の背景と目的	2
第2節 共同研究の概要	3
第3節 研究者会議、意見交換の概要	5
第2章 国際的な意匠保護の在り方に関する研究	17
第1節 研究内容の要約	18
第2節 中国における国際的な外観設計専利の保護	20
I. 「中国外観設計制度の改革」	
李明徳 教授（中国社会科学院）	20
II. 「中国のハーグ協定への加盟が外観設計保護に与える影響」	
曹 新明 教授（中南財經政法大学）	34
III. 「GUIの外観設計専利保護－日中間の比較を中心に」	
張 鵬 専任研究員（中国社会科学院）	50
第3節 日本における国際的な意匠保護	72
I. 「ハーグ協定による意匠制度への影響」	
茶園 成樹 教授（大阪大学）	72
II. 「画像の意匠の保護対象・保護範囲に関する覚書」	
青木 大也 准教授（大阪大学）	80
第3章 ソフトウェア関連技術の特許保護に関する比較研究	95
第1節 研究内容の要約	96
第2節 中国におけるソフトウェア関連技術の専利保護	98
I. 「コンピュータソフトウェアの専利保護に関する問題の研究」	
呉 漢東 教授（中南財經政法大学）	98
II. 「ソフトウェア関連ビジネス方法発明の専利可能性判断の難題の対応」	
管 育鷹 教授（中国社会科学院）	118
III. 「中国のビジネス方法専利の保護－適格性要件及び進歩性要件の役割分担の視点による検討」	
顧 昕 首席研究員（CNIPA知識産権発展研究センター）	136
第3節 日本におけるソフトウェア関連技術の特許保護	152
I. 「ソフトウェア関連発明の特許適格性について」	
田村 善之 教授（東京大学）	152
II. 「ソフトウェア関連発明の特許性判断における進歩性要件の役割」	
前田 健 教授（神戸大学）	178

※ 本報告書の中国側研究者の報告書は、一般財団法人知的財産研究教育財団 知的財産研究所が翻訳を担当した。なお、文中の訳注は [] で表記している。

本報告書は、一般財団法人知的財産研究教育財団 知的財産研究所 二階堂恭弘 研究部長、井手李咲 主任研究員、高井康好 主任研究員、高橋勇太 研究員、石本愛美 補助研究員、坂治深雪 補助研究員が担当した。